

キャラクター名
灰木 優雅 ハイキ ユウガ

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン		ワークス	高校生	カヴァー	気怠げな高校生
	ノイマン					
オプション			年齢	17	性別	男
覚醒	渴望	衝動	解放	初期侵食率	37 %	
出自	義理の両親	経験	大成功	邂逅	貸し	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	0	1	0			1	行動値	10
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	10
精神	6	0	2			8	戦闘移動	15
社会	2	0	0			2	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	6		RC	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志	3		調達	3	
運転:			芸術:			知識:学問	2		情報:噂話	1	
運転:			芸術:			知識:ビジネス	2		情報:		
運転:			芸術:			知識:処世術	1		情報:		
運転:			芸術:			知識:工作	1		情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
大型拳銃	射撃	8r+4		5		3Dプリンタとかで作った。見つかったらなければ大丈夫

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
思い出の一品	
ウェポンケース:大型拳銃	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリス	消費
申し子:セレリティ	P	N		
義理の両親	P 有為	N 無関心		
取引相手	P 有為	N 無関心		
咲月 両末	P 連帯感	N 無関心		
水森 律果	P 庇護	N 猜疑心		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 10 残り財産P: 50

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:ノイマン	3	2	メジャー					
効果: c値-LV								
コントロールソート	1	2	メジャー	武器	-	射撃		
効果: 精神置換								
零距离射撃	1	2	メジャー	至近	-	射撃		
効果: 射程変更 判定+LVd								
生き字引	1	1	メジャー	至近	自身	意思		
効果: 情報判定に使用可能 判定+LVd								
セレシティ	1	5	メジャー	至近	自身	自動	Dロイス	
効果: 即座に2回メインプロセス HPを[10-LV] シナリオ1回								
カウンター	2	4	リアクション	武器	単体	射撃	80	
効果: 対象と対決 勝利した側が攻撃 シナリオLV回								
勝利の女神	7	4	オート	視界	単体	自動	100	
効果: 達成値+[LV×3] ラウンド1回								
ラストアクション	1	5	オート	至近	自身	自動	100	
効果: 戦闘不能時にメインプロセス シナリオ1回								
フェイタルヒット	5	4	オート	至近	自身	自動	100	
効果: ダメージ+LVd ラウンド1回								
インタラプト	2	8	オート	視界	単体	自動	ピュア	
効果: c値+1 シナリオLV回								
ブラックマーケット	5	2	常時	至近	自身	自動		
効果: 常備化ポイント+[LV×10]								
プロファイリング	1							
効果: 見ればわかるよ								
効果:								

来歴
どこまでも未知を愛している青年
だが何をしても、何を食べても、何を見ても、「これは体験したことがある気がする」という感覚に襲われている為、常に退屈している。
だからこそ未知を求め様々な事に手を出した。
それは博打的なビジネス、死ぬギリギリまでの絶食、自警団活動の真似事など、危ないところまで手を伸ばしていた。
不思議なことに今まで手を出してきたことはそれなりの成果を出し、無茶をしても無事にやり過ごしてしまっている。この不思議な万能感にはさらにデジャヴのような感覚を増幅させてしまっている。

性格
高校のあまり親しくない同級生から見れば「無気力で何を考えているかわからない奴」
実際は上記のことから既に学校やそこにいる人達に飽きてしまっているだけである。
本来は飽くなき探究心と万象に対する興味を持ったアクティブな性格である。

戦い方
稼いだ資金や3Dプリンターなどを十全に使って自作した拳銃などを武器を使う。
ノイマンシンドロームによって上昇した処理能力をフルに活用し、未来予知に近い予測を立て正確な射撃で敵を撃ち抜く。

覚醒
その超常的な力を見たとき、確かに僕は心が躍った。
これこそ僕の求めていた未知だ、非日常だと。
だからこそその力が欲しい、そう強く願いながら奴の攻撃を受けると僕は力に目覚めていた。